

エケレ共、サスガ武士共恐シケレバ、其モ叶ハズ、

〔太平記〕^十龜壽殿令落信濃事附左近大夫偽落奥州事

伊達南部二人ハ、貌ヲヤツシ夫ニナリ、○中四郎入道、○左近大夫ヲ箒ニノセテ、血ノ付タル帷ヲ

上ニ引覆ヒ、源氏ノ兵ノ手負テ本國へ歸ル眞似ヲシテ、武藏マデゾ落タリケル、

〔鹽尻^{十四}〕箒 石土ヲ運ブ器但字ノ聲イカマゾヤ、字書ニ箒ノ字アツテ音拂、爾雅ニ輿革ノ後

ヲ謂之箒、郭璞曰、以韋鞞後戶也云々、モシ此字ナルカ、按ズルニ、今ノ俗ニイフ、ア。ン。ダ。ニシテ、此

頃山カゴトイフモノ、是ヨリ作り出セシトカヤ、中世マデ、貴人ハ牛車及ビ長柄ノコシニノレ

リ、今武家ノ太人、ヨノツネ皆カゴニノレリ、是野俗ヨリ起レル故カ、禮ノスタレタル事久シ、オ

シムベキカナ、

〔奥羽永慶軍記〕^七佐竹北條合戦ノ事

イマダ三番貝ノナラザルニ出陣スレバ、道無ガ勢、先へハユカズ、一所ニ集リ、餘リニ急ギシ故落

馬セラレ既ニ息絶候トイフ、駿河守モアタリニ寄テ、如何候トイフニ返事モナシ、嫡子右衛門尉

二男善九郎左右ニ在テ、箒ニノセテカ、セ歸レバ、大道寺モ進ム事能ハズ、

〔正寶事録一〕覺

一箒之事、天井なく、棒をつきとをしに致、いかにもそそうに可仕候事、○中

子^{○正保}五月 二月

右は二月廿八日御觸町中連判、

〔憲教類典^{三之三十六}〕^{乗物}元祿六癸酉年六月

猿樂あをだの覺

一高サ三尺壹寸七分